

霧島火山新燃岳2017年噴火の降灰量霧島火山新燃岳2017年噴火の降灰量

Masses of tephra fall deposits from the 2017 Shinmoedake eruption, Kirishima Volcanoes, Kyushu, Japan.

*及川 輝樹¹、前野 深²、宮縁 育夫³、長井 雅史⁴、嶋野 岳人⁵、古川 竜太⁶、成尾 英仁⁷、中田 節也²、池永 有弥²、三輪 学央⁴、入山 宙⁴、中野 俊¹、石塚 吉浩¹、田島 靖久⁸

*Teruki Oikawa¹, Fukashi Maeno², Yasuo Miyabuchi³, Masashi NAGAI⁴, Taketo Shimano⁵, Ryuta FURUKAWA⁶, Naruo Hideto⁷, Setsuya Nakada², Yuya Ikenaga², Takahiro Miwa⁴, Yu Iriyama⁴, Shun Nakano¹, Yoshihiro Ishizuka¹, Yasuhisa Tajima⁸

1. 国立研究開発法人産業技術総合研究所、2. 東京大学地震研究所、3. 熊本大学大学院先端科学研究部、4. 国立研究開発法人防災科学技術研究所、5. 常葉大学社会環境学部、6. 気象庁火山課、7. 伊集院高校、8. 日本工営株式会社

1. GSJ, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, 2. ERI, The University of Tokyo, 3. Faculty of Advanced Science and Technology, Kumamoto University, 4. National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience, 5. Faculty of Social and Environmental Studies, Tokoha University, 6. Japan Meteorological Agency, 7. Ijuin Senior High School, 8. NIPPON KOEI Co., Ltd.

宮崎・鹿児島県境に位置する、霧島火山の新燃岳では2011年に準プリニー式噴火およびブルカノ式噴火が起こった。その新燃岳は2017年10月11日に再び噴火した。この一連の噴火は新燃岳山頂火口内の東縁付近に新たに形成された火口から、火口2 km以遠に火山灰を降下させるものであった。噴火は、10月11～12日と14～17日の2つの時期に分けられる。そのうち、主な降灰は4つの期間の10月11日、12日、14日午前、14日午後から16日早朝にかけて発生した。それぞれの降灰域は、11日は火口から東側、12日は東～北東側、14日午前北東側、14日午後～16日早朝は北西ないし西側が主である。それぞれの時期の降灰量は $10^7 \sim 10^8$ kgオーダーであり、総噴出量は $4 \sim 8 \times 10^8$ kgである。ただし、この値は火口近傍の層厚が得られていないため、確度は高くない。より詳細な値は、発表当日に紹介する。

キーワード：新燃岳噴火、火山灰、総量、霧島火山、体積

Keywords: Shinmoedake eruption, ash-fall deposits, total mass, Kirishima Volcano, volume